

## 平成30年度第3回子ども・子育て専門分科会における主な意見一覧

No.	区分	委員によるご意見
1	○第2期計画のニーズ調査の集計報告について	(富岡委員) 「現在の暮らし向き」の設問について、「普通」という回答の幅は広いが、その中で「大変苦しい」「やや苦しい」という回答している人は本当に経済的な苦しさを感じているのだと感じる。「大変苦しい」「やや苦しい」を合わせて約43%という割合を重視し、十分に分析すべきである。
2	○第2期計画のニーズ調査の集計報告について	(富岡委員) 「数」の確保と「質」の確保の両方を考える必要がある。ニーズの社会的背景を理解することが重要だ。たとえば、ニーズ調査の「自分自身に関して悩んでいること」の設問をみると、「子育てにかかる出費がかさむ」、「自分の時間が十分取れない」が多い。一方で、「就労状況」の設問をみると「パート・アルバイトで働きたい」も多い。どのような就労をしたいのか、子育てにどのくらいお金をかけたいのか、自分の時間をどのくらい取りたいのか、といった背景を十分に理解しないと、行政が子育て支援として「どんどんニーズに対応する」となることには不安がある。
3	○第2期計画のニーズ調査の集計報告について	(北山委員) 「ニーズ調査でニーズが出たから受け皿を増やす」というだけでは、現場がハードワークになり、養成校を出た人がすぐ辞めてしまっ て人材が育たない。「需要にいくらでも応える」というのは少し考え ないといけない。例えば延長保育・預かり保育などは、本当に必要な 人が利用するのはよいと思うが、家庭でみることのできる場合もあり 、「どの部分のニーズに応えるか」を十分に議論して、市民にも理 解を求めながら、子どもにとって良い環境を整備するという視点を忘れ ずに検討する必要がある。
4	○現計画の目標事業量の変更について	(岩田委員) 資料の目標事業量のデータに、平成31年4月以降に開園する園などは含まれているのか。  【ご意見に対する回答】(事務局) 既に反映済みです。
5	○現計画の目標事業量の変更について	(田中委員) 資料1-1の認定こども園へ移行する施設について、1号認定の定員が15人増えるという同じ内容の表が上下2段に掲載されているが、どこが異なるのか。  【ご意見に対する回答】(事務局) 名称を明記していませんが、2つの私立保育所が移行して、それぞれで15人増えるためです。
6	○第2期計画の基本的な考え方について	(岩田委員) 入管法改正により、言葉の通じない外国籍の子どもやその保護者が今後さらに増えると思う。現場では言葉が通じないので身振り手振り で対応するといったことが起きており、対策が必要である。
7	○第2期計画の基本的な考え方について	(岩田委員) 留守家庭児童会室について、年度末が休みなので、働く保護者が利用できずに困っているという声を聞く。保育所は休みなしなので、保護者は保育所と同じ感覚をもっておられる。

No.	区分	委員によるご意見
8	○第2期計画の基本的な考え方について	<p>(岩田委員) 市は公立施設の民営化を推進し、私立保育所・幼稚園が増えてきているが、公立保育所・幼稚園の担うべき具体的な役割とはどのようなことか。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 公立施設の担うべき役割については、平成30年11月に本分科会にご意見をいただきながら作成した「就学前の教育・保育施設に係るひらかたプラン」において、「民間の就学前児童施設と協調しながら、小学校へのスムーズな接続に向けた保幼小の連携を推進する役割」、「国から示される指針等を踏まえ率先して教育・保育を実践し、その中で見えた課題等の情報共有を行う役割」、「特に配慮を要する保護者や支援が必要な子どもに対して、専門相談機関と連携しながら支援を行う役割」と整理しています。</p>
9	○第2期計画の基本的な考え方について	<p>(板床委員) 子ども食堂について、母親が車で送迎しているケースがある。利用者が必ずしも支援の必要な人ではないケースがあると感じる。</p> <p>(安藤会長) 子ども食堂については、事業として発展していくなかで、「貧困対策」だけでなく、「地域の子どものつどいの場」という意味が付け加えられてきた地域もある。各地域の実情に合わせて順応していくことも必要かと思う。</p>
10	○第2期計画の基本的な考え方について	<p>(板床委員) 子育てに関するサロンなどの地域活動に、専門的な方を派遣してもらえれば、地域の子育ての場ももっと充実すると思う。</p>
11	○第2期計画の基本的な考え方について	<p>(富岡委員) 効果が目に見えるようなものは評価されやすいが、ハードよりソフトの充実、有機的に連携した支援の充実、といった効果の見えにくいところにも力をいれてほしい。たとえば先ほどの専門職の派遣については、年に何回と「固定」するより、ニーズを把握して特定の地域には集中して行くといった「選択・集中」ができるとうい。「選択・集中」も固定せずに常に見直すことが重要だが、それができる都市の規模を活かして枚方市の強みにできればよい。</p>
12	○第2期計画の基本的な考え方について	<p>(山本委員) 問題が顕在化してから対応するのではなく、潜在的な問題に気づいてほしい。「切れ目のない相談体制」でお待ちしていますと言っても、相談するべきときに気づけないまま一大事になっている。たとえばエコチル調査(子どもの健康と環境に関する全国調査)では、詳細な回答を要求するかわりに、回答すると商品券などの謝礼があり、回答しないと督促するなど、かなり予算をかけているようだ。子育て支援の総合窓口などで、アンケートを定期的実施するなどしてはどうか。現在の保健師の全数訪問では1度会ったきりになってしまうが、郵送で返送するという形でもいいので、定期的につながるような施策をつくれればよいと考える。</p>
13	○第2期計画の基本的な考え方について	<p>(山本委員) 施策目標5「子育てと仕事の両立支援」について、認可外も含め様々な保育施設があるが、保育の質の確保のため、例えば公立園が中心になって、外国籍の子どもへの対応で困っている現場に、利用できる制度の紹介など、現場に情報提供できるような支援があるとよい。</p>

No.	区分	委員によるご意見
14	○第2期計画の基本的な考え方について	<p>(北山委員) 保健センターと子ども総合相談センターの部署が異なるが連携できているのか。施設等への連絡が別々に来るように感じる。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 保健センター・子ども総合相談センターに加えて府の中央子ども家庭センターが、それぞれの立場で気になる点についてお聞きするということはありません。ただし、要保護児童などの情報は三者で共有し、対応方針について検討しています。</p>
15	○第2期計画の基本的な考え方について	<p>(藤村委員) 留守家庭児童会室の放課後児童支援員について、職務に魅力を感じても辞めてしまうのは、労働条件が自立できる内容ではないからだと思う。5、6年生では体力的に男性の力が必要になる。4,900人の子どもを受け入れるのであれば、労働条件の改善が必要と考える。</p>
16	○第2期計画の基本的な考え方について	<p>(藤村委員) 施策目標4「地域における子育ての相談・支援」について、赤ちゃん訪問では、子育て環境や困りごとなどを把握することができ、必要があれば保健センターからも訪問していると聞く。虐待の裏には、相談が必要なことに気が付いていない場合があると考えられるので、相談「待ち」ではなくアウトリーチで情報を得ることは重要である。</p>
17	○第2期計画の基本的な考え方について	<p>(北山委員) 私立幼稚園にも臨床心理士が来られているが、公立幼稚園には週1回となっており、私立にも回数を増やせるとよい。 また、施策目標5「子育てと仕事の両立支援」に関して、幼稚園教諭も不足しているので、「保育士等就職支援センター」の名称について「幼稚園教諭」も追加してほしい。</p>